

ふっこう訓練通信



令和7年11月／発行：葛飾区都市整備部都市計画課（担当：田上・山本・石塚）／電話：03-5654-8382

第2回 青戸地区震災復興まちづくり訓練を実施しました！

10月29日（水）18時半から「青戸地区 第2回 震災復興まちづくり訓練」を開催しました。

ふっこう訓練通信第2号では、「第2回訓練」の様子をお伝えします！

当日の資料などは、区のホームページでご覧いただけます。

トップページ>くらし・手続き>安心・安全>防災・国民保護>震災復興まちづくり訓練について

ホームページへの
アクセス
はこちらから第2回訓練（令和7年10月29日）～地域協働復興の重要性
を学び、被災後の「住まい」の復興を考えよう～ の概要

第2回訓練では、地域の方々29名にご参加いただき、訓練用の「青戸地区の被害想定」の確認後、被災後の住まいの確保などについて、グループワークで話し合いました。

(1) グループワーク〈被災後の「住まい」の復興を考えよう〉

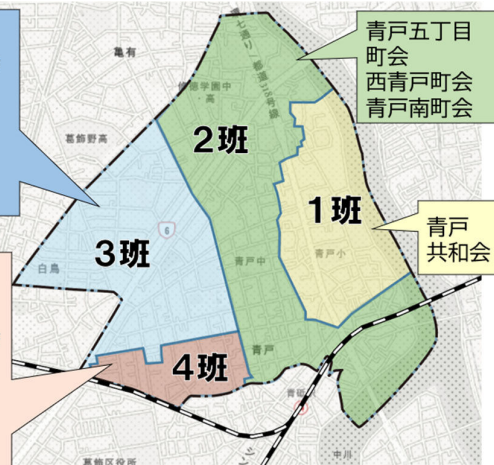
参加者が4班（右図）に分かれ、被害状況や世帯設定が異なる被災者になりきり、「住まいの復興」について考えました。被災後の仮住まいや自宅の再建方法、復興課題について意見交換するグループワークです。主なご意見は下記の通りでした。

第2回訓練の内容

- (1) ガイドンスの振り返り
- (2) 葛飾区の被害想定と地域協働復興を知る
- (3) 青戸地区の特性と訓練用被害想定
- (4) 被災後の「住まい」の復興を考えよう
- (5) 発表
- (6) 解説

白鳥東町会
青戸第二公園住宅自治会
中青戸町会
白鳥マンション自治会
青戸四丁目青葉自治会
白鳥友和会
白鳥あゆみ会

青戸公園住宅自治会
青戸三丁目桜自治会
青戸第三公園住宅自治会
青戸三丁目芙蓉自治会
青戸第五公園自治会
青戸さつき自治会
グリーンタウン青戸町会

グループ
ワーク
の様子 ⇒

世帯設定と主な意見

＜凡例＞【基本情報】

①世帯構成 ②職業 ③建物 A:応急危険度判定 B:被害状況（※ 2班と3班は、被災者の設定が同じです）

【1班】東京 一子(70)

- ①なし（大阪に
長男夫婦）
②無職
③戸建て住宅
（木造2階）築40年
A:危険（全焼）
B:全壊



1班の主な意見

- 可能な限り、住み慣れた地域に残りたい。まずは避難所での生活を選ぶ。
- 復興へ向け、地区の状況を確認できる場所で暮らすことは重要。

【2班】東京 太郎(72)

- ①妻(70)（都内に長男）
②無職 町会・自治会長
③戸建て住宅
（木造2階）築40年
A:要注意
B:中規模半壊
土浸水被害



2班の主な意見

- 町会長であるが、ずっと避難所にいると心身共に休む暇が無く大変になる。このため、昼間は避難所運営、夜間は自宅で休む形が良い。

【3 班】東京太郎(72) ①妻(70)(都内に長男) ②無職 町会・自治会長 ③戸建て住宅 (木造 2 階) 築 40 年 A:要注意 B:中規模半壊 十浸水被害 	3 班の主な意見 ●避難生活は、避難所で みんなと一緒にだと心 強い。 ●住まい再建は、長男と 相談し、賃貸住宅の保 証人になってもらう。	【4 班】東京 花子(57) ①なし ②会社員 ③分譲マンション (4 階) 築 20 年 A:調査済 B:一部損壊 十浸水被害 	4 班の主な意見 ●1 階が水没なら、地区 外避難として知人宅 やホテルを考える。 ●早期にライフライン の復旧や清掃、ローン 免除があれば戻れる。
---	---	---	--

(2) 解説 東京都立大学 中林 一樹 名誉教授

今回、皆さんが活発に意見を交わされていました。まちづくりを議論する際、これが最も重要で、たくさんの方々が話して色々な意見が出ることで、より多様で良好なまちづくりへと展開していくことができます。復興とは、被災者 1 人ひとりの復興 = 「被災者復興」と、街をどうするかという「被災地の復興」があります。今日は住宅の話が中心でしたが、お店や企業も事業所という法人なので、1 つ 1 つが復興主体になります。



被災者の復興には**罹災証明の申請が重要**です。罹災証明は住宅の被害程度に応じて発行するため、地震、水害、液状化など、被災ごとに細かく基準が決められています。被災者復興の中で最大の課題は家の再建です。修理でも高額ですし、建てる際はものすごくお金がかかる。この住宅再建には一定の公的支援があります。公的支援を公平に行うための証明書が**罹災証明**です。**罹災証明は申請しないと発行されません**。申請受付前に行政は一軒ずつ調査しますが、日が経つと被害状況が変わるので、被災直後に自宅の被害状況の写真をスマホ等で撮りましょう。

再建の際、お金の話が誰でも大問題になります。地震保険に未加入の方はぜひ入ってください。お金はかかりますが、誰もができる事前復興です。被災しないと保険金を受取ることではできませんが、掛け捨てで損をする訳ではありません。私も長年、地震保険をかけてきましたが、これだけ災害が続いて保険金を受取る人がたくさんいます。そのほんの一部でしょうが、私の長年にわたる掛け金が、被災者への支払い金となって支援しているのです。

● 平時からのコミュニティが大事です

避難所では三食出ますが、仮設住宅に入ると家賃以外の食費や電気・水道代など生活費が自己負担になります。若い世代は稼ぎが必要になり、能登半島地震でも住みなれたまちを離れ、仕事のある金沢等へと流出した被災者は多い。東日本大震災の例でも、同居する子どもにとっては 3 年以上地元を離れると学校の関係で故郷に戻る感覚が薄れます。グループ発表でも近所のお付き合いや友達など**コミュニティが大事**という話が多く出ました。どこにどう住まいを復興するか。平時からご近所や行政とで話し合っておくコミュニティづくりは、復興にも重要なのです。

今後の訓練スケジュール

会場：青戸地区センター 3 階大会議室
 時間：18 時 30 分～20 時 30 分

どなたでも
ご参加いただけます！

▶第 3 回訓練 令和 7 年 11 月 20 日(木) 被災後の「都市」の復興を考えよう

▶第 4 回訓練 令和 8 年 1 月 28 日(水)「青戸地区震災復興の進め方」をまとめよう

※次回訓練からもご参加いただけます。下記よりお申込みください。多くの方のご参加をお待ちしております。

※既にお申込みいただいた方は再度のお申込みは不要です。

参加申込シート (FAX 送信用) 葛飾区 都市整備部 都市計画課 宛 FAX: 03-3697-1660

フリガナ
お名前

住所 〒

TEL

メールアドレス

WEB でお申込みの方はこちら



二次元コード
を読み、必須
事項にご回答く
ださい。

※ FAX 送付の方は必要事項をご記入のうえ、この紙面をお送りください。 ※収集した個人情報とは本訓練以外の目的では使用いたしません。